

What's up,
OITA!

世界で活躍する県人会員と留学生OB、大分県関係者の皆さま方に、大分の「今」をお伝えします。

《Vol. 86》2020年4月発行

なつかしい我が故郷～大分ふるさと写真館～

【 宇佐市 / 豊後大野市 】



(宇佐市)
安心院の朝霧



(宇佐市)
東権屋の滝



(豊後大野市)
神楽会館



(豊後大野市)
普光寺磨崖仏

令和2年度 国際政策課のご紹介

世界で活躍する大分県関係者の皆さまに、今年度の国際政策課メンバーをご紹介します。

課長
藤井 正直



昨年度のラグビーワールドカップのレガシーを、国際交流、グローバル人材の育成、外国人との共生につなげていきたいと思っております。

参事(総括)
吉田 豊三



主な担当業務：
・旅券審査(総括)
・パスポート班の人材育成

課長補佐(総括)
川島 栄一郎



主な担当業務：
・海外戦略の推進(総括)
・課の人材育成

主幹
藤原 由博



主な担当業務：
・海外戦略の推進
・海外プロモーション
・トビタテ！留学JAPAN

副主幹
山崎 基広



主な担当業務：
・留学生の就職・起業支援
・アジアビジネス研究会
・中南米の県人会

主査
佐藤 佳香



主な担当業務：
・日本語教室ボランティア
・外国人防災モニター
・日本語パートナーズ

主任
村上美夕紀



主な担当業務：
・旅券審査、輸送
・旅券業務の委託
・パスポート班の予算

主任
河野 宏貴



主な担当業務：
・海外ネットワーク
・JETプログラム
・国際交流員の活動

主事
重石 麻衣



主な担当業務：
・外国人総合相談センター
・留学生の奨学金
・予算、決算、監査

新体制となりました。より一層皆様との連携を深め、海外における大分県のPRや国際交流の推進に取り組んで参ります。皆様からも、ぜひお気軽にご連絡ください！

おおいた国際交流プラザに新所長が着任

令和2年4月1日に、二日市具正氏がおおいた国際交流プラザの所長として着任されました。

(二日市所長 あいさつ)

昨年は、本県でもラグビーワールドカップの試合が開催されました。大会は大成功に終わり、県内でも様々な交流が生まれました。このような大きなイベントを一過性のものに終わらせるのではなく、これをきっかけに草の根レベルでの交流を更に進めていく必要があります。多文化共生で大切なのは、相手の国を理解し、相手にもこちらを理解していただくことです。地道な取組になりますが時間をかけて育てていくことが重要です。



二日市所長

近年、県内にも在住外国人が増え、個人レベルの交流が活発になっています。外国人が、県内で楽しく暮らし、本県の魅力を海外に発信してもらうためには、災害など緊急時にも安心できるようしっかりと情報を提供していく必要があります。現在、県では当面するコロナ対策に全力を挙げていますが、外国人も住みやすい地域を目指して各種の取組を進めて参ります。

トビタテ！留学JAPAN帰国報告会と知事表敬



トビタテ！留学Japanでイギリス等に留学した学生7人の帰国報告会を2月18日に開催しました。本事業は、「留学を通じて、産業界を中心に社会で求められる人材、世界を視野に入れて活躍できる人材を育成」するためのプログラムです。大分県では平成27年からこのプログラムがスタートし、今年は7名、これまでにのべ33人の方が留学にチャレンジしてきました。

今年度はイギリス、ドイツ、スペイン、オランダ、イタリア、台湾へ派遣され、ものづくりや林業、観光の3分野において、それぞれで設定した大分県の課題に対して、海外ではどのような対応をしているのか、先進事例があるのかを学んできました。帰国後は県内企業でのインターンシップを通してその成果を地域へと還元し、その内容も含めて留学成果の報告を行いました。支援企業の皆さんからは、「この留学で得られたことを、もっと大きなものにしてほしい」、「ただの留学体験として終わらせるのではなく、今後は自分自身がいろいろな繋ぎを果たす役割を担ってほしい」等のコメントをいただきました。

報告会に引き続いて開催された知事表敬では、留学生がそれぞれの成果を知事に報告し、「派遣前に比べて成長した姿を見せてくれてうれしい。支援企業さんへの感謝を忘れず、大分県のグローバル化を支えてくれることを期待します」とねぎらいの言葉がありました。

今年度の学生の中には、さらに大学の派遣留学や海外進学を予定している学生もおり、非常に意欲的な学生が多かったです。このような学生を支えていくため、皆様からの引き続きのご支援を頂ければ幸いです。



韓国・中国交流員をめじろん海外サポーターに任命

韓国 国際交流員 金 眞雅 (キム ジナ)

時間の流れは早いもので今でも大分に着いたその日の光景を鮮明に覚えています、それからもう5年が経ちました。今は韓国や県外から大分に戻ってくるとホッとするぐらい私にとって第2の故郷となり、「大分の二度泣き」という言葉が身に染みてきます。

最初は初めての社会人生活に戸惑いもありましたが、周りの人々に恵まれていてとても充実楽しく過ごせました。翻訳や通訳を始め、幼稚園児から高校生にまで韓国のことを紹介したり、韓国語を教えたり、交流事業をサポートするなどずっと韓国と日本の架け橋になりたいという夢をこの大分で叶えることができ、嬉しい限りでした。

また、5年間この「What's up, OITA!」の取材を通して県内すべての市町村を回ることもできました。どこへ行っても美味しいものや美しい景色があり、そして親切な人との出会いもありました。大分を離れるのは寂しいですが、身をもって感じた大分の魅力を韓国に帰っても忘れず、多くの人に伝えていきたいと思えます。

5年間大変お世話になりました。また、皆さんにお会いできることを楽しみにしております。



金交流員 (左) と苗交流員 (右)
めじろん海外サポーター任命式にて
(中央は尾野副知事)

中国 国際交流員 苗 占婷 (ビョウ センテイ)

「光陰矢の如し」、あっという間に大分での一年のCIR任期がおしまいを迎えたので、お別れの挨拶をさせていただきます。この一年間、中国からの教育旅行や中国の地方政府及びCtripのような民間交流団体の来県時の通訳、出前講座・教育旅行助言・国際理解講座などの開催、多様な資料の翻訳やチェック、月に一回「What's up, OITA!」の監修・翻訳などをさせていただき、充実した毎日を楽しんで過ごしてきました。

また、週末や祝日を利用して県立歴史博物館や県立美術館を見学したり、日田市の千年あかりや竹田市の竹楽などのイベントを体験したり、九重夢大吊橋や耶馬溪に足を運んだりして、大分県の歴史・伝統・自然・食の魅力も満喫できました。そして、めじろん海外サポーターに任命され、「大分県の娘」として頂き、大変光栄だと嬉しく思います。親切な皆様のご協力とご配慮のおかげで、無事に任期を終えることができましたので、ここで改めて深く感謝申し上げます。

帰国して元の働き先に戻り、大分で学んだことや体験したことを活かして、引き続き「日本一のおんせん県」大分県の魅力を学生や友達にPRしていきたいと思えます。大分県と湖北省、大分県と襄陽市の架け橋になり、これからも頑張っていこうと思えます。

最後になりますが、今世界中に蔓延している新型コロナウイルスが一日でも早く終息するようお祈りするとともに、皆様のさらなるご活躍とご健勝を心よりお祈りいたします。

市町村からのお知らせ【玖珠町】



台湾鐵路管理局と姉妹友好締結

昨年12月6日に玖珠町と台湾鐵路管理局(台北市)は現存する扇形庫をつながりとした姉妹友好の締結を行いました。旧豊後森機関庫は、町の代表的な観光スポットとして海外からも多くの人々が訪れています。一方で、彰化市の扇形庫は、昭和初期に作られ、台湾で現存する唯一の扇形庫で現在も利用されています。



今後は玖珠町と台湾との間で、人々の往来が増え、観光、産業、文化、教育などの面で交流が進むよう取り組みを行っていきます。

キリカブランコの試し乗りをしました

玖珠町を象徴する伐株山山頂で玖珠町を一望できる場所でキリカブランコの試し乗りを玖珠町の有志の方たち主導のもと2月24日、3月21日の2日間で行いました。両日とも多くの子どもたちが玖珠町の絶景を楽しみました。

(注意:キリカブランコは常時設置しておりません。)



毎年5月5日のこどもの日に開催される第71回日本童話祭は中止となりました。

童話の里 玖珠町 トップページ

www.town.kusu.oita.jp

【玖珠町企画商工観光課】



Pick Up! 大分の「今」

県内の出来事（3月）

News

【3月3日(火)】 別府ブルーラグーン構想 上人ヶ浜が最適



北欧アイスランドにある高級スパリゾート「ブルーラグーン」。別府市はこれに倣った屋外温泉施設構想の建設地について、候補地の中から別府湾に面した上人ヶ浜公園が、アクセスと景観の面で最も優位性が認められると発表しました。この事業のコンセプトは
(1)別府温泉の本物を生かす (2)自然を生かす (3)持続可能な施設整備(環境との共生)

(4)別府全体で稼ぐ(地域連携拠点づくり)
(5)新たな温泉コミュニケーションの創造—の5点を掲げます。「源泉数」と「人が入浴可能な温泉湧出量」が世界1位を誇っている別府温泉。温泉施設の基本理念の中に日本の温泉文化の歴史や、世界とつながる新しい温泉のイメージを持たせる予定です。

News

【3月4日(水)】 大分空港へ ホーバークラフト復活



海面に浮かびながら滑る様に進む水陸両用の乗り物、ホーバークラフト。2009年以来運休していたものを、県は大分空港へのアクセス改善策として復活させる方針を示しました。船舶購入などの初期費用は県が負担し、運営は民間事業者が担う「上下分離方式」を採用。今後は事業者を公募し、早ければ2023年にも運航

を開始する予定です。現在、大分中心部から空港へのアクセスはバスでの陸路で片道約1時間かかっていますが、ホーバークラフトを導入すると別府湾を横断するルートで所要時間は約25分に。利用者数は年間30万~40万人台を想定し、定員は80人程度でバリアフリー対応にする計画。

News

【3月9日(月)】 ムスリム食品自動販 別府に登場



別府市亀川にあるスーパー「サンストア」はイスラム教徒の「ムスリム」や、ベジタリアンの人々にも対応した食品自動販売機を設置しました。同スーパーは社会福祉法人「太陽の家」が運営し障害者の職域拡大と地域サービス、地域との交流を目的にしています。留学生が多く暮らす同地域で、安心して食事を楽しむ環境を整えようとした試みは県内スー

パーでは初めて。取り扱う商品はマレーシアでハラル認証を受けたカレーやスナック、インドネシアのカップラーメンなどの17種類。価格は300~700円です。昨年11月には大分市高崎山自然公園内のおさる館1階にも同様の自動販売機が設置されています。

From our Reporters

県の国際交流員が、旬なOITA情報をお届けします。



日出町の八津島神社の西側に、山桜の巨樹があります。高台にある庄屋跡地から別府湾を見下ろし、樹齢が400年を超えるといわれていて地元の人に「庄屋桜」や「彼岸桜」と呼ばれています。また、別府湾で漁をする人々が咲き具合を見て海の水温を推測し、漁の目安としたことから「魚見桜」としても親しまれているそうです。

毎年の三月中旬頃に花が咲き、かつては年に一回「魚見桜まつり」が開催されていましたが、2012年に台風の被害により親木が花を付けなくなり、まつりも一旦中止されました。その後周りに接ぎ穂をした2世桜を育て、2018年にまつりを再開させましたが、新型コロナウイルスの影響でイベントは再び中止になりました。

三月の中旬に現場に行ってみましたが、気温は暖かくて桜はほぼ散ってしまっていました。しかし、周りに菜の花が咲き空も青く、とても居心地よかったです。

来年も春を告げる魚見桜の姿を、絶対に見に行きたいと思います。



シエ シンラン
(Xie Xin Lan)



県内の最新の観光情報はこちらから
ご覧ください！

(ツーリズムおおいたHP)

<https://www.visit-oita.jp/>

話題提供のお願い！



県人会の活動(懇親会等)や留学生OBの近況など、世界中の大分県関係者に紹介したい話題をお寄せください！(様式は任意です)

【記事提供/お問い合わせ先】国際政策課 担当:重石【Mail】 a10140@pref.oita.lg.jp